

第32回高知女子大学看護学会報告

ヘルスケアをデザインする
～看護をデザインする～

山 田 覚*

第32回高知女子大学看護学会が、去る平成18年7月22日（土）に、高知女子大学池キャンパスで開催された。県内外の様々な施設から、186名の卒業生・修了生および看護職者の皆さまの参加があった。本年度のテーマは『ヘルスケアをデザインする～看護をデザインする～』で、午前中の講演会では、日本看護協会会長の久常節子先生を講師としてお招きし、看護専門職として如何に看護をデザインしていくか、久常先生の行政、教育、職能団体のトップというそれぞれのご経験からご講演頂いた。

〈講演会：午前10:00～12:00〉
学会長挨拶

松本女里学会長から、社会の変化、医療を取り巻く大きな変革の時代にあって、人々が看護職に求める役割や期待は年々増大しており、そこで、今回は「看護をデザインする」をテーマに、看護職がどのように看護をデザインし、看護専門職として社会に貢献していくことができるかについて考えたいとの思いから、講演会を企画した旨挨拶があった。お招きした久常節子先生が日本看護協会会長として、わが国の看護界のトップリーダーとしてご活躍中であること、および先生は本学看護学科の卒業生でもあられることが紹介された。また、先生には長年にわたる行政、教育、看護職能団体の長として培ってこられた豊かなご経験に基づく、ご講演をいただけるものとの期待が述べられた。

また、本学会での新たな企画として、午後に4つの学術交流会を開催すること、更にその後に卒業生と修了生による茶話会にて、交流を更に図って頂きたい旨挨拶があった。

来賓挨拶

高知県看護協会会長中村ささみ氏と高知女子大学学長青山英康先生より、来賓の挨拶があった。また、高知医療センター看護局局長の梶本市子氏の座長のもと、講演会が進められた。

久常節子先生のご講演

別紙の通り、今年度のテーマである「看護をデザインする」を演題として、約1時間半のご講演を頂いた。



〈総会(ランチョン形式)：午後12:00～13:20〉

1日という短期間の開催で、中身の濃い学会にするために、初めての試みとしてランチョン形式の総会が開催された。

*高知女子大学看護学会企画委員長

〈学術交流会：午後13:30～15:30〉

今回は本学会の新しい試みとして、午後に学術交流会を企画した。現在話題となっている診療報酬の改定に伴う対応をいかに行なうか、地域医療連携をどのように考えて行くのか、あるいは個々のスタッフの生きがいに繋がるキャリアをどのようにデザインして行くのか、また臨床の場でのケアをどのように考えて行くのか、参加者の皆様と議論し、活発な意見交換の場となった。

学術交流会 1：診療報酬改正の対応策をデザインする

コーディネーター：粕田孝行 氏

（高知女子大学看護学部教授）

学術交流会 2：地域医療連携をデザインする

コーディネーター：梶本市子 氏

（高知医療センター看護局長）

学術交流会 3：なりたい自分に繋がるキャリアをデザインする

コーディネーター：久保田聡美 氏

（高知女子大学健康生活科学研究科、
産業カウンセラー）

学術交流会 4：患者さんの個別性を尊重した
ケアをデザインする

コーディネーター：中野綾美 氏

（高知女子大学看護学部教授）



〈茶話会：午後16:00～17:30〉

カフェテリアにて、卒業生および修了生による茶話会が、お菓子とお茶を飲みながら、和やかな雰囲気の中行われた。参加者からは、持ち時間1分で、近況報告や学会への期待などがユーモアたっぷりに報告され、50期も異なる同窓生同士が和気あいあいと交流した。

以上

